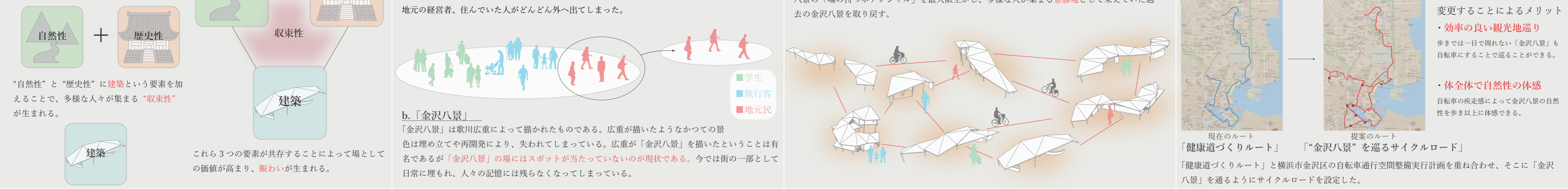




点、線、面。〜景勝地“八景”とサイクルロードによる地域拠点の創出〜

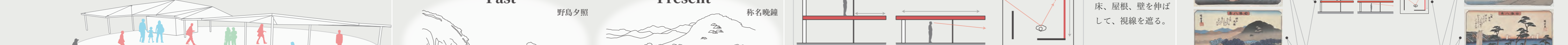
01. 対象敷地：神奈川県横浜市金沢区

金沢八景は、豊かな“自然性”と過去から現代に新しい“歴史性”を持ち、「場の持つポテンシャル」を十分に発揮できる場と考えた。

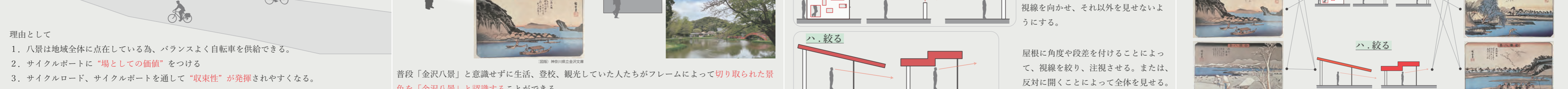


02. 現在の金沢八景

a. “失われた30年”
金沢八景駅駅前一体の区画整理事業の話が立ち上がった。発表から着工する予定だった工事が難航し、数年の予定が30年かかって完成した。当時、新しい建物もなかなかできず、当時からある店の経営者は歳を重ねていく。そのため、地元の経営者、住んでいた人がほとんど外へ出てしまった。



b. 「金沢八景」
「金沢八景」は歌川広重によって描かれたものである。広重が描いたようなかつての景色は埋め立てや再開発により、失われてしまっている。広重が「金沢八景」を描いたということは有名であるが「金沢八景」の場にはスポットが当たっていないのが現状である。今では街の一部として日常に埋もれ、人々の記憶には残らなくなってしまっている。



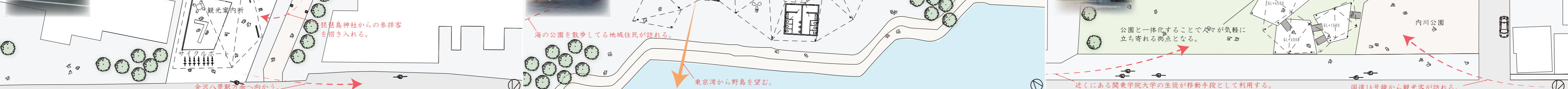
03. コンセプト：“八景”を取り戻す（点）

30年経ち、駅前の区画整理事業が終了したが、外へ出て行ってしまった人を取り戻すために、現在駅前でイベントを行い、町おこしとして外から人を呼び込もう。また30年の間に出ていった人を再び呼び戻そうとしている。そこに、私たちは金沢八景における“ハブ”を形成し、金沢八景の「場の持つポテンシャル」を最大限生かし、多様な人が集まる景勝地として築いてきた過去の金沢八景を取り戻す。



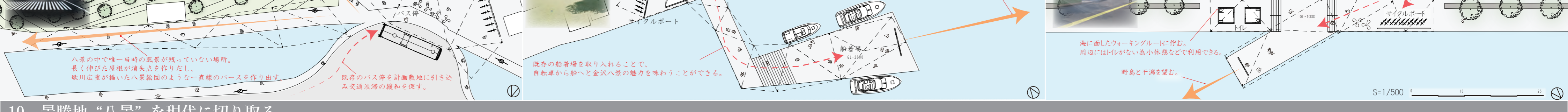
04. プログラム：サイクルロード（線）

■“金沢八景”を巡るサイクルロード
現在、金沢八景には「健康道づくりルート」という約13kmのウォーキングルートがある。これをサイクルロードに変更する。



05. 建築提案：場の創出（面）

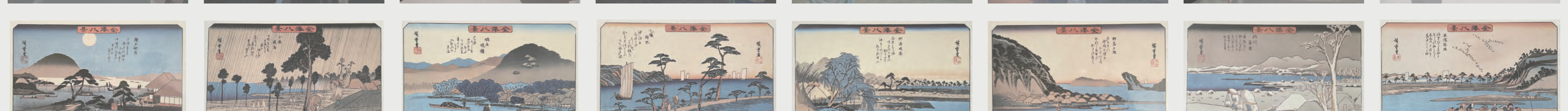
歌川広重が描いた「金沢八景」をサイクルポートとして場所性（八景らしき）を表現する。サイクルポート内には自転車置き場を確保する。このポートの場所として広重が描いた「金沢八景」の8つの場所を選定する。



理由として
1. 八景は地域全体に点在している為、バランスよく自転車を供給できる。
2. サイクルポートに「場としての価値」をつける
3. サイクルロード、サイクルポートを通して“取束性”が発揮されやすくなる。

06. 操作1：風景の切り取り

かつて景勝地だった金沢八景を十分に表現しているものとして歌川広重の描いた「金沢八景」がある。その描かれた景色を現代でも感じられるようにフレームによって、日常のワンシーン（天候、時間、人など）を切り取るための装置を設置する。



07. 操作2：伸ばす、削ぐ、絞る

現在の風景におけるノイズとなる要素を取り除くために、屋根、壁、床の構造を利用し、「見せない」操作を加える。

08. 「金沢八景」の切り取り方

「金沢八景」に対する見えない操作

09. サイクルロードと集約拠点もたらす効果

周辺地域価値向上
サイクルロードと集約拠点となる建築を組み合わせて「場のポテンシャル」を最大化する。

一、瀬戸秋月 S=1/500

二、小泉夜雨 S=1/500

三、称名晚鐘 S=1/500

四、乙船帰帆 S=1/500

五、洲崎晴嵐 S=1/500

六、野島夕照 S=1/500

七、内川暮雪 S=1/500

八、平潟落雁 S=1/500

10. 景勝地“八景”を現代に切り取る。

一、瀬戸秋月 二、小泉夜雨 三、称名晚鐘 四、乙船帰帆 五、洲崎晴嵐 六、野島夕照 七、内川暮雪 八、平潟落雁

